

夏合宿

津軽十和田男鹿コース

期日 8.50.8.15 ~ 8.50.8.28

参加者 杉浦元幸(4) リーダー

藤原享(3) 途中参加

毛利亮一郎(2) 合計

小柳秀樹(2) 医療

鈴木俊明(1) 雑用

空谷一夫(1) 書記

コース 弘前→金木→小泊→竜飛→青森→

十和田市→十和田湖→大館→能代

→男鹿半島→秋田→田沢湖→盛岡

全走行年月 約600km

記録 空谷一夫



合宿のレポートというものは、帰って来てからすぐ書くものであつた。二枚を書いた。その時、何んと春長宿が経つてから後存のである。かなり忘れかけている記憶をたまりと何んとか書くべく、と決できた。……(一人言)

第一日目 出発の日の一週間前であつた

だろうか。東北地方は豪雨のため、奥羽本線

が不通になつてしまひ、予定してゐた急行に

乗れず、青森まで行くことになつた。七時の

夜行に乗るのに4時間近くをらび、そしてい

ふ乗つてみると加つ加つ、臨時にしては座席

もよく涼房まできいてゐた。たまに手他の班

と同じ電車にのり込んでトラップなどもやつた

りして時間をつぶした。ポーカーの賭けをし

て松浦さんと飲木がずいもうけにらしい。

第二日目 夜行でまつたく服がずい、朝五時

に青森についた。荷物を受け取り、弘前まで

多駄で行つた。車中での地元の人々の話やま

るでこれから、外国の様である。これはな

やまでいさうと思つた。弘前に着いたのは朝

の一時。朝念を服前で信へ、自転車を組み立

て始めに服かけて眠くてたまらぬ。出発したのは

十一時頃だつた。弘前城を高一のサイクリストに

会つた。彼の前では若木山何丘の道は不通とのこ

と。信等は弘前市の生協で産産を取り、日陰で産

瓶と束ぬえか、約一時間たつぱりは息した。この

日はせんを深で五所川原までしか走れず、恙道老

人ホームの前公園にテニスを張つた。夜は飲に

なやまされた。走行キヨリ 30 km

第二日目 朝目をさす可とぞら中かゆく、テ

ニトのゆ側には服かぶくつとふくれた故衣をへす

にふるさつていた。この日の夜にさされること

七をぬくてもなうらす、赤くふくれて最後まで存

やまされた。テニスのそばに置いておいてパーを

大にかじらしたか、その他の物は無事であった。

老人ホームの人に礼を言つて、加4をもちつて出

発。天候すくもり。北上して金本町に到着。大車

かまき山に斜陽館を模する見せがら あしの
公園で大休止。このあたりから小雨がポツポ
ツ降り初めた。そのまゝ北上して高根カラ

PA-2
国道筋を左折して十三湖へ向つた。田んぼの

中の一木道が長く続いてあり 田んぼのりま
には雁がさしてありとらいう群がその橋に長
くつがつかさしてあつた。鏡木はあの長くつ
をばいて田んぼに入るのかなをいふていた
が使はつかしのかわりたと言つてくらん流
論をした。 倉十三湖に着き付近のドライブ
イニで倉倉をヒツていたら大雨にまつてしま
い、一時間はかり休んで 小やみになつたと
ころでヤッケを着て出発。木の橋を渡つて小
泊をひざし面を北上。小泊に着いたのは午後
二時半頃だつた。 ニュースでは台風が近づい

ていさうしく雨になるかも知れない。 巻紙ま
で行くにけ一度もつて回り道をしてぬはたら
ないのて舟で香浜に行こうと志す。 舟は定期船

はなく 舟とヤーターでねはなす。 自然
と値段のふか高くなり 結局舟には乗らず

近くにとまる所はないかとあつちつちしていた。
寺に行つてみたが 民宿をやつていて満員で

すとことあつた。 公園らしい所もなく 公
番に尋ねたら民宿を紹介してくれて さあ二
千五百円で民宿とせまることにした。 ぬさし

バりに風をた入り 洗たくもついでにした。
走行キヨリ 53km

第三日目 心配していた台風はとうとう来
かもなくて 天候は曇り又小雨。 凶番に竜巻へ

行く直道はないか尋ねに行くと 山道と三蔵

も訪ひ増田林道が近直だと教わり、その林道
 にチャレージしてみた。はじめは田んぼの中
 のあせ直みだいな所を走り、段々勾配もきつ
 くなつてくる。ワケに後の荷物が重く感じる。
 三十分走つて休憩。また少し走つて休憩。勾
 配はまっく、ジャリ直とまていゝもんだから
 もうぐつたり。毛利さんと杉浦さんが先頭で
 おくぬて山柳さん鈴木をせてボウ、イニター
 におとしてもちおキツイ。フイヒ押しが勉
 々が量よく段上にヤツとたとりつけた。ホ
 トんの水はカラッポ。峠には標識があるだけ
 もう昼食すき。一時半頃、途中の水の水を茶
 とわかして飲んだ。とてももうまかつた。下りに
 なつたとせん。杉浦さんの自転車かパンク。
 予備タイヤをもつていゝのですぐ修理で
 さいか。ちんと遅延。再びパニック。今度は

ひとく二ヶ所穴をのさいたら、さき方まで下
 くやり直し。再び修理して、いよいよ車を入れた
 ら、空気が入らな。よく調へた。もう二ヶ
 所穴があいていた。結局、修理するのじ一時
 間半近くかたり。その間に鈴木と山柳さんは
 先に下つてしまひ。毛利さんは途中で転倒、
 ドリアリアアかはすれず、車をすりおさかし、
 キーをひんまは、バッテリーはスラスラと
 こしまつた。ちんとか林道を下り降り降るともつ
 四時近く。近くの店でパンを食ひ、食ひて本は
 の眠舎と食料を見つかり、なげなうない。店
 屋は酒屋と雑貨屋ばかり。雨も降りだし曇
 すると三坂本町会館とかいである。会館を見
 つけ、杉浦さんの酒意の任藤さんにたのみ、一晩
 とめてもらうこととした。杉浦さんが食料を
 買ひに入つたが、痛くともまだ時分、ハストカ

四人づいて牙走。存んで行くことと決めた。A-藤原野崎 富田 朝井 (さるめとしてゴメン 富田はおいしい) 直である。飯事はできるまでかなく

ニまっていたラシかった。合計十人となり。人となくニキヤカになった。今日の二ん立てはオムレツと野菜サラダとみそ汁。さし入水キヨウリ10本。 走行キヨリ26km

第四日目 朝から天候はよくない。しかれどもにもめゆ。荷物をも民屋において、竜飛まで往復した。道は水たまりが多いため前走者に直つくと顔にまで泥水がかけられてしまふ。竜飛からの帰り下り坂でスピードを出しすぎ右カシテでハントルを切れる、鈴木氏は草村の中へ転倒。幸い怪我をなかつた。民屋で朝食をすませ B.D.所合同で出発した。

三瓶から今別までR280を走り 今別から大平經由に蟹田まで県道を通った。B群とは大平で別れ夜うほ小川へ向った。蟹田で近い層を消ませ休んでいると雨が本降りになって来た。やみそうにはないので雨巾をヤッケを首でかみシヤラに走った。R280をひたすら南下し奥内まで走り 雨もやんだので公園でテントを張った。メニューはハンバーグとみそ汁とトマト。食器を洗って、いてフキンがないので手巾で拭いておいた。近くのおじさんが来て「このフキンつかい百」といってくれたのは嬉しい。

走行キヨリ70km

第五日目 朝小雨が降っていたらしくテントがしめっていた。今日も空はどんより曇っている。朝食を食べていると 近所のおば

んが僕等の朝飯のあまりの貧弱をトミガねて
かおにぞりキコとモロコシも首を差し入れ

してくれた。おはさんの話け方までひじょう

にまきとりにくくハイハイと相アチアチガリ

うっていった。おはさん曰く「うちの息子がい下

ラ通訳してくれさんだか。↑↑↑おはさん方までいとうぞ。

またも天候を憂へして出発。R80で青森まで南

下し、市内で三ツツピニックをした。おニベだけ残

念ながら買えなかつた。青森駅では日本一固

とかいてある自転車かおいてあった。フルモ

痛でホトんが二本、重量は四五十キログラムあつた

のではないが。直ぐの公園で産を慮べやかく

りと休息した。その後R4で浅田まで行き、

テニスコ場があるはずだった所、見つからず水

族館見物のため、テートをはれるところをさ

かしながら浅田中宿に参ろうと決めた。成

員室で天候をのみたよから先生と話をして、夜食の

すみに張らせてもらったラニとじし。温泉へ入

りに行ったところから雨が降り出し、帰つてくる

とテニスコ場はひじょうひしょ。しかたなく玄關で

服かせてもらった。走管キヨリ 30 km

第六日目 今日はお祭りのため、朝飯もく

のすに未時半に中宿校を出発した。浅田の駅

でパニと牛乳を買った朝飯とした。今日の夜に

は藤原さんが加れる予定である。朝七時半頃

駅を出発してR4をひたすら走った。R4号

はひじょうに幅が広く車数も多い。またおさ

な丘をのほりおりしている。かおりのハイペ

ースで走ったため肩や手足での勢四時に十時

半頃ついでしまった。駅では東洋大サイクリ

ニカ部の団体は自転車を組み立てていた。成

等の人数はなんと20数名。うち女子は50名位の

8A-4

テニト用品はもつていたが二日宿を予約してあるとの
こと。取っかかんに茶を淹れしたり、フライパンや
なべなども、ていどには整った。せむかいりと合馬が
乗せようなあ。彼等と別れて一路七戸をめざしてペマ
ルを踏んだ。七戸には正午すぎに着き、ここで昼食を
とり、七戸の森で昼眠をした。七戸を出発したのは三
時頃、十和田市に近すどつた。取崩の案内で公園
を探し、まずは公園へテニト返りに行った。公園付近
で僕の自転車の後輪がパンク。初修理にやし時間がか
かったがな人とかがまて直せた。テニトの中に葛備と
おいて藤原長を山向いに再び取へ、去時頃藤原さんお
到着、鎌倉をかぬて、外履と球まり取付直の倉庫へ行
った。いままてテニトには2人と入って眠っていたので2
人の方ばかりたりして、おれから日からうる人ら。藤
原さんおさうとくテニトの中でたてにぬることを主張

し自分は中央に睡ってしまった。する
いるあし。 走行キヨリ 54km

第七日目 浅虫乙とまつたとき

大雨でる木山付近や十和田湖付近の
道が不通になっていたか、とちやら
通れるようになったらいい。朝は出
このパン屋の朝めしをくい、R102で
十和田湖へ向。た。焼山までは大し
に登りもななく乗っけた。焼山からの
望入瀬ラインは、ともまをかける登
りの疲れさを感じさせない。二日前
の雨のためか道の片方が川になって
いる所もあった。水量がわいたのせ
かりこつてりちのかげんだ、巻のせ、
ほとあると空房かともさいてあしい。

十和田湖に昼頃到着した。近付のみやげ屋で
 昼食を取り、その後自走車を置いて三女の像
 (おはちやんの像)を見にいった。さすがに暖か也
 けがあったものすこい人々。自走車にもと
 つて大雨が降り出し、ラオでは再び台風が
 接近してきていることを言っている。やんでか
 ら今日の目的地休屋までしてまりはじめ
 と以外に盛り仮が出現、すこ寝るだろうと思
 った。下ろすかおやおかさない。イニターに
 身としてヤッとするか。さくさく上ヒッた。
 ニニか魔の瞰湖台。景色はいい所だがあい
 く雨のため湖が暗いところか。休屋
 まで快通にくだり、食料を買い、キヤノコ場へ
 行ってみた。お無情にも雨がよど降り出し
 キヤノコ場の管理人に「ニの前は大雨で、コ
 トが〇個育ちましたよ。なんでおこされた

もんをからし方をして川にしまろうとしたが、
 念のため満員。とどりの旅館に泊まった。

走行キヨリ 55 km

第八日目 昨夜は雨が止んで降、下路まで
 なく、しかも空は曇り曇り曇り。夜中
 半頃寝荷を世送り、今日のメインイベントの
 発荷場に挑戦。龍馬さんを盛りになるとあつ
 とする間にぬけ出してすこ見えなうなうとし
 まう。上を見上げるとおんおんおん。おんお
 ぬき、先の方に龍馬さんが走っている。後は
 最後尾でゆっくりにイニターにおとしこまうた。
 かくかくバイクはいいなうと思う。発荷場で休
 憩しを後、下りかまらかまえている。一足も
 ニかおに十和田湖まで行けた。ニニで昼食を
 取り再び出発、東大館を総用して鷹巣まで
 行った。馬にくと雨が降り出し、今晚の宿

FA-5

はとうしほうかと考え、一時は映画館ですこ
 そうたんで奥も出たが、玄蕃に尋ねたい。そ
 ら改命を紹布してくれた。二この牧師さんか
 とても親切で、普くなりコーラで飲ませてく
 けるし、豊の室をかしてくるし、ガス、料
 在場まで分してくれ、風呂までとうそと言っ
 てくれた。夜のノニユトはシンキスカンとシヤ
 川のみそ汁。Rは豊の上と座ぶとんをひきミシ
 コラアでねた。 走行キヨリ 80 km

第九日目。台風がっりに通過し、星りす青

快晴、行きしなにウヤカとなすをもっい、記

念写真をとってお別れ。如も能代へ向って出

発、能代までのRはほひし、つと車調でも

しろくながった。能代がらさらドドリで南下

し大曲で登壇をとつた後、八郎海の手っすぐ

続く道を快調に飛ばした。今日のハイライト
 である奥風山にのぼる前、すこし飛ばしす
 べて皆バチを抜き、三時と頃登りはじめ、35m
 の頂上までいっきに登った。頂上は36度傾斜
 で天気もよかったため風景だった。頂上から
 少し下った所の芝生で杉浦さんかうる時計を
 なくし、ミヨツワのためが身分すくぬす。頂上
 で時間を短くすき、あわてて下山すると海岸
 線のアップダウンにクワッキト、まいった。
 空が暗くなりかけた頃、ヤッと北浦にっき近
 くの公園にラン人を飛び外倉ですまえた。

走行キヨリ 100 km

第十日目 朝倉の時、パントコンテナスミ

ルケをつけてたべたが、2缶も買ったのであま

りこしました。すると川柳さんかあの井いこ

ルヲをそのまゝせしうすめて飲んてしまふの
 である。すかすか恐怖のミルケ人向といふ名
 がついでしつた。あいにくじ園に便所がな
 かつたにため藤原氏、毛利氏、山内氏は車ひらて用
 したした。僕らは途中の加ソリニスマニトで
 便所を借りた。今日は晴天。北浦から有料直
 路を通り入道橋へ向つた。途中で見える日本
 海は東にまれりて言うことなし。しかし道は
 12%登り坂かいろんな所にありつた。入
 道橋で秋田大のサイフリニフ部に止まつた。
 彼らほユニホーもをそろえてさつそうと僕た
 ちをめぐりていった。ここで昼食をたへ灯台で
 記念写真を撮り再び出発。途中で今日二ツ目
 の有料直路。大橋橋有料直路に到着。入口か
 らすべ登り。アツアツウツカまつく。景色は
 最高。午後4時頃豊後原に着いた。近この公

田でオートを張り今日も夕食。

第十一日目 走行キヨリ 40 km

前日からのつかれがたたつて起床が9時半。

出発が11時とめちやくちや。今日の目的地は

秋田までだが、R7号は車数が多くなつた。たつ

まらぬ。何も見るところがなくなつた。ア

フリを二りで秋田に到着。秋田の城をたつ。

と見に行つたら、一トのサイフリストに出合

つた。たしか東京の人だと思つた。たが。この日

は秋田大の警明原に着まつた。まつたひと

い原の床がみしみし音をたてていた。本日は

最後の料理日だつたので藤原氏お得意のピ

マンの肉づめかたで腹ははちまれそうだった。

山内氏はじんましんのため、残念ながら(幸)直

にも、このピーマンの肉づめは食べなかつた。

走行キヨリ 40 km

8A-6

カ十二日目

秋田大の藤江九時頃出発し秋田駅で朝食を食
 へた。秋田駅で支店、個人準備を送り、輪行
 して田沢湖駅まで行くことにした。荷作りは
 時間がかかり秋田駅を出たのは午後一時頃。
 田沢湖駅についたのは三時前だった。再び自
 転車を組み立て、フロントバックだけでそう
 便に田沢湖畔を走った。そしてYHは五時に
 着きひと安心。ニニのYHはバイクニカ方式と
 向いていたので楽しみにしていたか女子が意
 外によくたべるのでどうやうか食べられずめ
 しほかりに食事をとられていたアップルツカい
 いのかすくなくなくなってしまった。夜は外でキ
 ャンプファイアーをして、杉浦さんが女子ト
 ートをしました。 走行キョリ 10数km

カ十三日目

YHを朝九時に出発し一
 ん田沢湖駅まで十とリ宿のハイライトで
 ある国見峠にマタツク。峠がソコソコを
 走ると切りくずしか高い所に見える自転車が走
 っている。これをみるとはじめてから例
 りとまてしまう。リキなり急な上り坂が続
 き同じ勾配がずっとつづく。保せけとりの
 ニニは、イニナートおとしてゆるくり登
 た。途中から勾配がゆるやがたになり、この
 間にか峠にのりこ。峠で記念撮影をとり
 ながら休方ヌクンヒルをたのしんでいると前
 方の店屋にまたない自転車が五台並んでい
 るではないか。ニニでA班に出るうちは、
 日比野さんはフリーのふたをばあしてニニ
 っといちかを利さんが用意してくるベアリーク

の球をもつていたので修理ができた。A班と合流して十二人位の大団体で出発。栗石で昼食を取り盛岡までいっきに走った。駅に行くまでに堀さんたちの班が着いていた。栗木か一人そばを念いすぎたためめりていた。盛岡の駅から1km位の所の花籠に左負どまった。夜はヒアかーデント打ち上げパーティをしようとした。二二に夏合宿の幕を下したのであります。事故はほとんどなく永叔さんが下りてスリッパしてありむき途中で帰ったらしいかたいしに二とはなかった。名取氏は出発前の荷作りの時に怪我をして不参加。その他はみな元気に合宿を終えた。 走行キヨリ 64 km

カ十四日目 朝七時の持急で帰った人もいながら他はみる夜行で帰るらしく小笠原長岡へ行くことになった。保と鈴木と栗原は先に出



発して内湯で20分ほど汗を流すのみアイスマリ
ームをまへ休んだ。保も夕る人日午後三時の
急行いけて20分を降り 他の連中は夜行を帰
ったらしい。駅で列車をま。ていると蔵倉さ
んもいっしょになり千人で帰った。上野は
十時頃だった。

走行キヨリ 50 km